

「新型コロナウイルス感染防止対策」JSCA 基本方針

令和2年8月20日
一般社団法人 日本スイミングクラブ協会
会 長 岡本 寛

「PCR 検査陽性者の発生動向」で、7 月末以降、全国の新型コロナウイルス感染者の数値が急増している。陽性患者数の推移を見ると、グラフは明らかに第2波の到来を示している。内訳では、家庭内感染者と感染経路不明者の割合が増加しており、日本国内は市中感染という新たなフェーズに移行したと言える。市中感染が常態化してきている現在、スイミングクラブやスポーツクラブを感染者が訪れることは、むしろ、当然のことと考えられる。我々の施設がクラスターの発生源となることを回避するためには、内閣官房「業種別ガイドライン」を遵守したクラブ運営を行い、より一層の感染拡大の防止策を図らなければならない。

協会では、5月18日「JSCA 営業再開への基本的考え方」を発表したが、今後想定できる第3波・第4波に伴う、再度の緊急事態宣言や都道府県による休業要請に備え、協会としての「感染防止対策基本方針」をここに策定する。

記

- 1) 多湿環境はウイルスの感染力を弱めることはよく知られており、プール施設は徹底された塩素消毒による水質管理によって、新型コロナウイルス感染拡大防止には非常に優れた環境であること。
- 2) スイミングクラブは、地域住民の健康寿命延伸と子供たちの健全な心身の育成の場として、地域社会に貢献することを責務としていること。
- 3) 小・中・高校の臨時休校要請に際しては、スイミングクラブは行き場のない子どもたちの救済施設としての社会的役割を担うべき施設であること。
- 4) 上記、スイミングクラブの特性と果たすべき役割について、一般社会及びマスコミ、行政関係者に対して広く周知を図るものとする。
- 5) スイミングクラブ業界の安全・安心を担保するため、加盟クラブのみならず未加盟クラブに対しても「JSCA ガイドライン」への理解を深め、徹底した感染防止対策のもとでクラブ運営を行うよう働きかけるものとする。
- 6) コロナ禍のもと、日本社会は新たな生活様式の実践が求められている。遠い先行きにただ変化を期待するのではなく、我々の業界は仲間たちと共に手を携え多くの応援者の声を励みに、困難に正面から立ち向う「次代を見据えたスイミング」としてのクラブ運営を構築しなければならない。

以 上